

## 7 臨床実習で担当した症例の紹介 —専攻科生としてチーム医療に関わった歯冠補綴物製作と義歯修理—

○會田寛志, 高橋巧実

明倫短期大学 歯科技工士学科専攻科 生体技工専攻2年

keywords : 歯冠修復, 義歯修理, 口腔内情報, チーム医療

### はじめに

現在, 歯科のチーム医療の輪において歯科技工士は, 歯科医師, 歯科衛生士に比べて患者との接触の機会が少ない。しかし本学の生体技工専攻では, 臨床技工実習として学内に併設された附属歯科診療所の歯科技工物の一部を製作し, 担当した症例の診療見学も実施している。これは歯科診療の流れとチーム医療の実際を理解する上で非常に有益であると考え, そこで今回は, 私たちが担当した歯科技工物の中から2症例について紹介する。

### 症例の紹介

#### 1) 硬質レジン前装連結冠の製作

60歳代女性, 1 硬質レジン前装冠の前装部破折。

- (1) 2 1 は広範囲のレジン充填の変色と二次齲蝕があり支台歯形成を行った。
- (2) 2 は失活歯で健全歯質が少なくメタルコアを製作した。
- (3) 2 1 | 1 2 支台歯の歯冠長が短く維持力が期待できないため, 硬質レジン前装冠を連結した。

製作した補綴物の口腔内装着を見学した際に, 術前に比べ唇側に出ているとの指摘があり, 前装部の再築盛を行った。この原因を考えると, 術前の口腔内情報が少なかったため唇側面の豊隆度を確認できなかったことが挙げられた。より確実に補綴物を適合させる方法として, 金属フレームの試適時に歯冠色ワックスによる歯冠形態の確認を行うこともひとつと思われた。今回の症例を通して, チェアサイドに立ち会うことで得られる情報が, 歯科技工作業を進める上で重要であ

ることがわかった。

#### 2) 部分床義歯の増歯修理

70歳代女性, 食道癌の術後, 5 クラウンが脱離し, クラスプが不適合となっていた。

- (1) 義歯を取込み印象し, 印象内面に義歯が正確に収まっていることを確認して石膏注入を行った。
- (2) クラウンはメタルコアごと脱離し, 残根状を呈していたので, 義歯の沈下を考慮してパラフィンワックス1枚(厚さ1.5 mm)でリリースした。
- (3) 直径1.0 mm Co-Cr線を用い, 4 に単純鉤を屈曲した。人工歯配列の妨げにならないよう, 鉤脚を舌側寄りに走行させた。
- (4) 欠損部に即時重合レジンを盛り上げ, 増歯・増床部を製作した。なお, 義歯床や周囲組織との移行性に注意した。

義歯取込み印象により作業模型を製作したので, チェアタイムの短縮と患者の身体的負担軽減につながったと思われた。単に増歯修理を行うだけでなく, 速やかに患者の要求に応えるには歯科医師と歯科衛生士, 歯科技工士の連携が重要と実感できた。

### まとめ

今回紹介した2症例の技工物製作に当たり, 診療室から伝達される情報がいかに重要かを理解することができた。診療室において患者とコミュニケーションをとることで自分が歯科医療従事者の一人であることを再認識することができた。また, 患者の意見や要望に応えることで歯科技工に対する責任とやりがいを感じた。

(指導教員: 野村章子, 飛田 滋)